

1 環境総務班

環境総務班はセンターの庶務経理、他機関等との連絡調整、施設管理等の業務と、各世代を対象とした環境保全に関する啓発イベント、自治会や小中学校等からの依頼による出前講座にも積極的に取り組んでいます。

これらに加え、センター周辺の市民の皆さんとは、近隣の保育園の子ども達とのゴーヤやヘチマによる緑のカーテン植付けや収穫祭、生物多様性講座で参加者の方々が観察したカブトムシやクワガタムシの飼育、センター敷地内の落ち葉や構内の草などで作った腐葉土を緑のカーテンに使ったり、楽しい環境保全活動を協働で行っています。

平成 29 年度に主催または依頼により実施した環境学習等の開催状況は以下のとおりです。

(1) 主催事業

当センターが実施した環境学習事業の過去 3 年間の実績推移を表 1 に示します。平成 28 年度は「平成 28 年熊本地震」の影響により、子ども環境科学教室と生物多様性講座は中止し、市民環境科学セミナーと親子環境探検隊は実施回数を大幅に減じ、主催事業の参加者も大きく減少しました。支援事業は微減でした。

平成 29 年度は、支援事業（出前講座）の依頼数は増加しましたが、受講者数は減少しました。支援事業は開催規模も含めて依頼者の意向に沿うため、小規模の出前が多かったものです。

自主事業の参加者アンケート結果では良好な評価（「良かった」100%）をいただいております、今後とも講座内容及び広報内容などのさらなる充実に努めます。

ア 親子環境探検隊

環境保全に対する意識の形成には、子どもの頃からの自然体験や家庭での取り組みが重要であることから、自然とのふれあいを通して、親子でいっしょに人と自然の共生や環境保全などについて考え学べる場として「親子環境探検隊」を実施しています。

第 1 回親子環境探検隊 ～江津湖水生生物ウォッチング～

親子で自然にふれあいながら、江津湖にすむ小さな水生生物（カゲロウの幼虫など）の観察を通して生態系の多様性を実感し、指標生物を観測することによる水質評価を学び、熊本の豊かな水資源をとおして“人と自然の共生”について学び考えます。

第 2 回親子環境探検隊 ～江津湖の水鳥探検隊～

市街地にありながら“自然の宝石箱”といわれる江津湖で水鳥の観察を行いました。カワセミを含む多種類の野鳥が観察され、生物多様性について親子で学び考えました。

絶滅危惧種であるクロツラヘラサギを至近距離から観察でき、渡り鳥を含めてたくさんの種を観察できました。

第3回親子環境探検隊 ～守り育てよう！里山の自然～

熊本市民の身近な里山である“金峰山”で、足跡や糞などから金峰山に棲んでいる生き物について学び、草木や実を観察して里山の役割や人と自然の共生について親子で学び考えることを目的に実施しています。

平成 29 年度は秋の熊本県熊本市科学展の開催を環境総合センターで行なったため、例年どおりの晩秋の開催が出来ず、3月に春の里山探索として実施しました。

小雨模様での開催となりましたが、平地では山にかかる雲として見える山地の霧のなかを歩く短縮コースでの散策の後、金峰山少年自然の家の一室で、里山で収集した松ぼっくりや木の枝、木の葉などの自然由来の素材でオブジェを作りました。

イ 子ども環境科学教室

小学校の長期休暇中に、環境と科学に関連した実験・体験を数多く盛り込んだプログラムを提供しています。平日の曜日ごとに異なるテーマで2週～3週程度開催していますが、平成29年度は啓発担当者数が半減（H28：4名→H29：2名）したため、縮小版で開催しました。

対象：小学4～6年生

期間：夏休み 公立小学校の夏休み初日から2週間（平日）午前・午後

月曜日：太陽と空気とエネルギー

水曜日：熊本の水の恵み

木曜日：紙とペットボトルのリサイクル

ウ 親子エコスクール →事業廃止：市民環境科学セミナーに統合

小学生とその保護者を対象に、簡単な実験や工作などを行いながら親子で楽しくエコについて学ぶ教室ですが、担当職員数が減少したため、同種の環境科学セミナーに統合しました。

エ 市民環境科学セミナー

当センターにおいて市民の皆様には熊本市の環境や環境を保全する取組みについて気軽に学んでいただくために、体験型の環境学習講座を開催します。親子での参加が可能です。

オ ミニ科学体感フェア【熊本県市科学展展示期間中】

環境教育・学習の拠点施設としての当センターの機能をPRするとともに、日常業務で行っている試験研究等への理解並びに環境保全と保健衛生に関する意識の高揚を図るため、当センターを一部開放し、科学実験の体験や各種展示物を通して、子どもから大人まで広く科学の楽しさや不思議さを体感していただいていたりましたが、平成28年度から当センターを開催場所とした「熊本県・熊本市 科学展」と期間を同じくした「ミニ科学体感フェア」として、リサイクル工作・科学おもちゃ作り等の体験コーナー設置に変更しました。

平成29年度は、ブンブンゴマ・浮沈子・ペットボトル飛行体・空気砲などのリサイクル工作系を実施しました。また総務班以外の検査・分析・研究を担当する職員による、飲料水の硬度の違いを体感する「利き水」、アルギン酸ナトリウムのゲル化を応用した「ぷよぷよ」、

紫外線蛍光クリームを使った「手洗い確認」などのブースを設置しました。

カ 江津湖水生生物ウォッチング

熊本市の『わくわく江津湖フェスタ』への参加事業として、江津湖水生生物ウォッチングを開催していましたが、平成28年熊本地震の被災復興に向けた新体制に伴って江津湖フェスタが廃止されたため中止しました。

(2) 支援事業（依頼により職員を派遣した環境学習会）

小・中学校、PTA、子ども会、公民館、福祉施設、NPO法人など各種団体からの依頼により、学校や地域公民館等に出向いて環境学習会（以下、出前講座）を開催しています。

当センターの出前講座は体験型として講座の中に実験、体験や、工作を盛り込み、面白く楽しい講座を提供しています。

平成29年度は昨年度よりも啓発担当職員が減ったことにより、限られたマンパワーを依頼による出前講座に集中させ、依頼を可能な限り受けることとしました。

ただし小規模の依頼が多かったため、実施回数は増えましたが参加人数は逆に減少しました。

出前講座人気ベスト4	
紫外線とUVビーズストラップ	24回
リサイクル(PET)工作	5回
水生生物(指標生物)観察	4回
リサイクル(紙・PET)工作	4回

学習内容では、紫外線に関する学習と紫外線によって色が変わるUVビーズストラップ作りと紫外線について学ぶ講座の希望が最も多く、小学校低学年から大人まで幅広い受講者に対応できるように、様々なプログラムバリエーションを用意しています。

また本年度は出前講座について初回のご相談が多く、工作に伴う怪我の心配の少ない「紫外線とUVビーズストラップ」の希望が多かったようです。

次に希望が多いものとしてペットボトルを使ったリサイクル工作が挙げられます。

講座の所要時間による制限、実施する部屋の広さと人数、年齢層などによりリサイクルする素材と工作内容は変わりますが、ペットボトル飛行体以外のリサイクル工作の合計は11回となります。これはリサイクル工作の成果物で「遊ぶことができる」ためと考えられます。

水生生物観察は、楽しい水遊びとしての側面を併せ持つことから依頼が多かったと考えられます。プログラム最後のまとめとして生物多様性の現状と意義を解説することができました。

今後は主催事業と同様に、提供するプログラムのテーマを系統的に再編成し、楽しく魅力的な内容にすることとともに、広報の強化にも努めてまいります。

表 1 主催事業及び支援事業の参加人数（過去 3 年間の推移）

事業名	H27		H28		H29	
	人数	回数	人数	回数	人数	回数
夏休み子ども環境教室	439 人	29 回			45 人	12 回
科学体感フェア	688 人	1 回			421 人	6 回
春休み子ども環境教室	43 人	8 回				
ジュニア環境科学セミナー						
市民環境科学セミナー	668 人	88 回	429 人	52 回	205 人	31 回
水生生物ウォッチング	62 人	2 回				
種の保存と生物多様性講座	114 人	4 回			184 人	4 回
親子環境探検隊 小計	88 人	3 回	33 人	1 回	105 人	3 回
親子エコスクール 小計	172 人	10 回				
環境学習指導者研修会						
以上、主催事業の小計	2,274 人	29 回	462 人	53 回	960 人	56 回
支援事業 (依頼による環境学習支援)	3,264 人	49 回	2,543 人	40 回	1,645 人	56 回
合 計	5,538 人	194 回	3,005 人	93 回	2,605 人	112 回

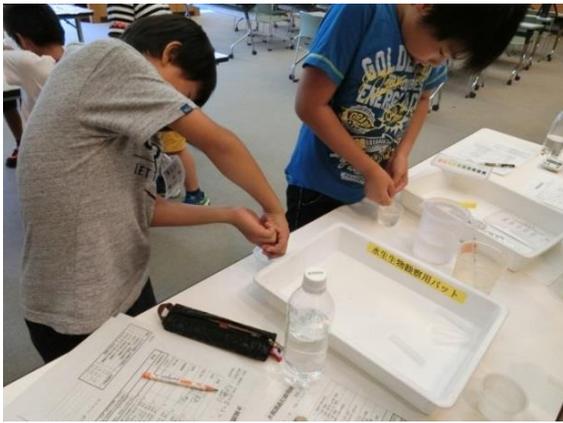
イベント、出前講座及び自主開催講座の様子



緑のカーテン 植え付け



クリスマスリース作り



夏休み教室 水質検査



夏休み教室 紫外線



生物多様性 カブトムシ・クワガタ飼育講座



親子環境探検隊 水生生物観察



親子環境探検隊 冬の水鳥観察



親子環境探検隊 春の里山探索



ミニ科学体感フェア リサイクル工作各種



ミニ科学体感フェア ぷよぷよ



ミニ科学体感フェア 硬度、利き水



ミニ科学体感フェア PET 飛行体